

科大学附属病院歯科医療センターでは同年に口腔ケア外来を新設して同病院医科診療各科からの依頼を一元化するなど医科歯科連携体制の強化を図り、さらに平成 24 年 9 月には歯科医療センター関係者が医科診療各科に周術期口腔機能管理の重要性や連携方法などについての周知に努めた。平成 24 年 9 月から平成 25 年 8 月までの医科からの口腔ケア外来への依頼を分析した結果、平成 24 年 9 月に比べて、その後の依頼数は増加したものの、適用症例全体からすると僅かであった。依頼元診療科には偏りがあり、本調査以前からある程度の依頼実績のある診療科からの依頼数が多かった。周術期口腔機能管理関連の診療報酬算定状況では、術後の口腔機能管理件数が術前の半数以下であった。更に周術期口腔機能管理計画を策定した患者のうち、歯科医療センターから他の歯科医療機関に情報提供していたのは 13.7%であった。これらのことから、周術期の口腔機能管理を充実させるためには、岩手医科大学附属病院内の連携と当歯科医療センターと地域歯科診療所間の連携をさらに強化する必要があることが示された。平成 24 年度以降、周術期関連の診療報酬算定数は増加傾向にあり特に専門的口腔衛生処置算定数は増加していた。診療情報提供料算定割合も増加していることから地域連携も推進されつつあると思われる。依頼元医科診療科では外科の割合が増加しており、周術期サポートチームの影響が考えられた。今後も医科歯科連携が推進され、周術期口腔機能管理の需要が増すと考えられる。

2. ヒト口腔扁平上皮癌における *Streptococcus anginosus* 感染と activation-induced cytidine deaminase (AID) 異所性発現

The involvement of *Streptococcus anginosus* infection and the aberrant activation-induced cytidine deaminase (AID) expression in human oral squamous cell carcinoma

○岩崎 賢介、松本 直子、佐々木 実*

岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野、岩手医科大学微生物学講座分子微生物学分野*

Streptococcus anginosus は条件さえ整えば膿瘍、感染性心内膜炎の起炎菌ともなるが、通常はヒトプラーク中に常在する病原性の低い細菌であると長らく考えられてきた。しかし 1995 年に胃、1998 年に食道の扁平上皮癌組織から *S. anginosus* のゲノム DNA が高頻度で検出されること、しかし近傍の健常組織中には *S. anginosus* の感染がみられないことが明らかにされて以来、*Helicobacter pylori* 同様、感染発癌に関与する原因細菌の一つとして注目されるに至っている。*H. pylori* の発癌機序については必ずしも明確にはなっていないが、最近の研究から、上皮細胞における活性化誘導シチジン脱アミノ酵素 (AID: activation-induced cytidine deaminase) の異所性発現がその 1 つとして挙げられている。AID は通常抗原刺激を受けた B 細胞にのみ発現し、体細胞高頻度突然変異とクラススイッチ組換という 2 種類の DNA 改編により抗体遺伝子の多様化に寄与している。しかし B 細胞以外の細胞での発現は癌関連遺伝子に変異を誘発し、発癌へと繋がる可能性が示唆されている。そこで本研究では、口腔癌患者から組織サンプルを採取し、口腔扁平上皮癌における *S. anginosus* 感染と AID 異所性発現の有無とその関連性について、菌種特異的 PCR および real-time RT-PCR を用いて検討した。さらに、3 種の株化上皮細胞とヒト正常歯肉上皮細胞を用いて、*S. anginosus* の特異的生理活性物質である SAA 刺激後の、AID 異所性発現と NF- κ B の活性化について real-time RT-PCR と dual luciferase assay を用いて検討した。その結果、今回調べた口腔扁平上皮癌組織中では *S. anginosus* 感染と AID 異所性発現がともに高頻度で認められ、両者間に有意の正の相関関係があることが明らかとなった。培養上皮細胞を用いた実験からは、調べた全ての培養上皮細胞において SAA 刺激により NF- κ B 活性化と AID 異所性発現が誘導され、さらに、NF- κ B 阻害剤の添加により AID 異所性発現の抑制が認められた。以上の結果より、*S. anginosus* 感染は、その特異抗原による NF- κ B を介した上皮細胞への AID 異所性発現の誘導を通じて、口腔扁平上皮癌の発症に関連していることが示唆された。